

目の不自由な人(1)

『道しるべは、あなたのひと声。』

街で白い杖を持った目の不自由な人が、立ち止まって考え込んでいたり、同じところを回っているのを見かけたら、それは「進むべき方向が判らない」或いは「迷っている」場合に多い姿です。こんなとき、「どちらにいかれますか？よろしければ御一緒しましょうか？」といった一声で、目の不自由な人の安全が確保されるのです。

「実際には、どのように手助けをすれば良いのか」判らない方も多いかと思いますのでよくあるシーン別の接し方を、いくつかご紹介します。

声を掛けるとき

目の不自由な人のお手伝いをする時は、あなたから声をかけましょう。声のした方向に顔が向けられ、自然に会話をする事ができます。

椅子に座ることをすすめるとき

椅子の位置と向きがわかるように、手をそっと椅子の背もたれ等に触れさせます。説明をせずに突然手を引かないように注意しましょう。

物の位置を説明するとき

テーブルの上に並んだ物を説明する時は、正面の一番近くにある物などを基準にして、そこから右に何があるかを順番に教える方法や、時計の文字盤を例にとって教えると判りやすいでしょう。

手引きをするとき

手を引っ張って移動を介助すると、目の不自由な人は不安になります。相手の斜め前に立って、2人とも進行方向を向き、目の不自由な人に片手で、あなたの肘から上あたりを軽くつかんでもらうと良いでしょう。

狭い道や混雑しているところでは

状況を説明して、つかまれている腕をあなた自身の背中の方にまわし、目の不自由な人には、必要に応じてつかむ腕の位置を変えてもらいながら、あなたの真後ろに入ってもらい、一列になって進みます。

階段の昇降

階段の手前で必ず止まり、横一列になります。上り(下り)階段である事を告げ、最初の一段の位置だけ、杖や足で確認してもらい、あなたから進みます。最後の一段は、少し大股に踏み込んで、上り(下り)きたら必ず止まり、階段の終了を告げましょう。また手すりがある場合、空いている方の手でつかんでもらいながら歩くと、より安全でしょう。

電車やバスの乗り降りは

電車に乗るときは「10cmくらいホームと電車の間があります」というように、電車とホームの溝幅や段差について説明します。乗る際に乗降口の手すり等に手を導き、手引きをしたまま乗り込みましょう。降りるときも同様です。

目の不自由な人(2)

車に乗るとき

タクシーや乗用車などに乗るときは、車の向きや車のタイプ(普通自動車・ワゴン車など)を口頭で説明した後、手の甲をドアノブの導きます。乗り込む際に、車の屋根に手を触れさせると、車の高さがわかり、頭にけがをすることが避けられます。

道を聞かれたとき

同行できる余裕があるときは、目的地や道がわかるところまで、手引きでの案内を申し出てみましょう。手引きでの同行ができない場合、目の自由な人が普段の歩行で目印にしている物などを聞き取って、相手が求めている情報を伝えるようにします。
※目に見える情報や距離などを伝えても、あまり役に立たない事が多いため、教え方を本人から聞いて、それを理解した上で説明することが重要です。

横断歩道で

信号機が変わることを音や気配で感じ取りますが、誤って赤信号のときに車道に出てしまう事もあるかも知れません。ひと声かけてから、安全に誘導しましょう。

コラム① 「音響式信号機」

青になると音が鳴るタイプの信号機です。
東西方向が青のときは「カッコー」
南北方向が青のときは「ピヨピヨ」と、方角により別々の鳥の鳴き声になっています。

コラム② 「視覚障害者誘導用ブロック」

視覚障害者誘導用(注意喚起用)ブロックは、目の不自由な人が、通路や廊下等を安心して歩けるように誘導したり、注意を喚起するために設ける床材ブロックです。色は黄色を原則としますが、景観上の理由などから、これと異なる色にする場合もありますが、周囲と区別しやすい色にするなど弱視の人にも識別しやすいものとなるよう工夫する必要があります。

※目の不自由な人のうち、何らかの光や物が見える「弱視者」がかなり多いと言われています。

誘導用ブロック

注意喚起用ブロック

目の不自由な人(3)

コラム③ 「気をつけたいマナー」

視覚障害者用のブロックの上や周りには、通行に支障となる物を置かないように注意しましょう。
例)

- ・建物の出入り口に繋がる、誘導用ブロックの上にマットを置く
- ・歩道の誘導用ブロックの上に自転車や、看板を置く

コラム④ 「盲導犬」

盲導犬はペットではなく、目の不自由な人が安全に歩行するため、十分に訓練された犬です。
盲導犬は白色または黄色の胴輪(ハーネス)を付けています。
胴輪(ハーネス)を付けているときは、犬は仕事なので、声を掛けたり、なでたりしないでください。
また、食べ物も与えてはいけません。

盲導犬は厳しく訓練され、しつけられていますので、吠えたり、かみついたりすることはありません。
また排泄についても、厳しくしつけられていますので、利用施設を汚すことはありません。